

令和4年度第1回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和4年8月1日（月） 15：30～16：30

場 所：ココルクえべつ

出席委員：川上誠一委員、小林孝広委員、金子正美委員、新田雅子委員、
小林徹男委員、田原久美子委員、森田弘之委員、腰原久郎委員、
大川尚委員、中井和夫委員、菅井美恵子委員（計11名）

欠席委員：菊地達夫委員、藤本直樹委員、岸本佳廣委員、三ツ井瑞恵委員（計4名）

事務局：企画政策部伊藤次長、健康福祉部四條次長、政策推進課嶋中課長、
中住主査、池田主任

その他：ココルクえべつ事務局明石コーディネーター、
高橋サブコーディネーター

傍聴者：0名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）形成事業計画における KPI 実績報告

資料1（事務局から説明）

（2）令和4年度地域交流事業等の実施状況

資料2（事務局から説明）

【質疑】

（1）

○新田委員

急に KPI という概念が出てきて戸惑っている方が多いと思う。計画では目標という表現を使っているのに、KPI という表現には説明が必要だと思う。

○事務局

説明が不足しており申し訳ない。

形成事業計画16ページの第5章「計画の成果目標の設定」（2）「目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容」の中で、「定量目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会において結果について評価を行います。」としている。「KPI」は重点的に達成しなければならない項目における成果目標のことで、

今回その KPI の結果について報告し、委員の皆様にも助言や意見等をいただきたいと考えている。

○新田委員

KPI というような新しい概念を使う場合には、委員の皆さんにわかるように説明していただきたい。

○川上会長

KPI という表現についてあまり浸透していないので、十分な説明が必要だろう。今回 KPI の達成状況についてこの協議会の場では初めての報告となるが、この目標に対する達成状況をふまえて、改善すべき点について議論していただきたいということで間違いないか。

○事務局

間違いない。

○川上会長

それを踏まえて、質問等はあるか。

○中井委員

KPI の達成状況を見ると、コロナ禍であるにも関わらず、よく成果を上げられたと感心している。

この達成状況の数値には表れないのだと思うが、施設の見学やイベントの参加にたくさんの方の来場があるのを実際に見ている。これらのことを含め、より詳細に説明したほうがいいと思う。

○川上会長

イベントなどの実施状況については議事（2）において、事務局より内容の説明をしていただきたい。

（2）令和4年度の地域交流事業の実施状況

○森田委員

数多くの地域交流事業を実施されていて、現在は twitter や Facebook で広報しているのは把握している。イベント等の広報について現在どのように行っているのかをお聞きしたい。

○事務局

現在広報えべつや市ホームページ、市の SNS など交流事業について周知している。

○小林孝広委員

広報が課題だというのは感じているところである。イベントを開催する際には、北海道新聞やまんまる新聞に掲載をお願いしている。

今後ラジオ体操など大麻地区の住民との交流の取組を実施する際には、自

治会に依頼し回覧板で周知できないかと考えているところである。

○森田委員

ポスターやチラシ等を幼稚園や保育所に配布して子どもや保護者に周知したり、当協議会の委員を通じて参加を呼び掛けたりするというような方法があると考えた。また、ココルクえべつ独自のホームページの開設も可能なら検討してもらいたい。

○川上会長

市の実施事業についてもココルクえべつの実施事業についても、市役所とココルクえべつが連携してPR活動を行っていただきたい。

他に質問等はあるか。

○金子委員

報告のあった地域交流事業について、主催者はどこなのか。

○事務局

市が行う事業とココルクえべつが行う事業とが混在している。例えば、定期開催イベントのうち、「多世代交流サロン CoCo カフェ」と「あさのわ広場」は市の事業として行っており、「あそびの会 in ココルクえべつ」と「重度肢体不自由児者・医療的ケア児交流サロンつながるカフェ any」については、ココルクえべつの事業として行っている。

また、随時開催イベントはすべて市の事業として行っている。自治会の交流についてはココルクえべつ独自の事業として検討をしていただいているところで、小中学校や大学との連携事業につきましては、市とココルクえべつが協力して進めているところである。

ただし、今申し上げた実施主体はあくまでも予算上の実施主体のことであり、どの交流事業についても市とココルクえべつが協力しながら実施しているものである。

○金子委員

この協議会では、この地域交流事業の計画予算や事業規模、収支決算について協議する場ではないのか。

○事務局

この協議会では協議会として執行する予算は持っていないため、予算決算についての協議をする想定にない。市の予算の策定スケジュール上、昨年度中に交流事業に係る予算を編成する必要がある。この協議会では、交流事業をどのように進めていくべきか助言をいただき、予算の範囲内で工夫できるよう、市とココルクが協力しながら検討していくことになる。

○田原委員

今説明のあった交流事業のどの取組に、市がどれぐらい関わっているのか

ということがよくわからない。どういう年間計画を立てて実施しているのか、どの事業を重点的に実施しているのかということがわからない。

○金子委員

4月から7月までの地域交流事業の実施状況の説明があったが、7月以降の実施予定などについても説明が今後あるのか。実施状況も計画予算と実績額の報告がないと議論のしようがないと感じる。

○田原委員

年間計画は報告がないようだが、市のほうでいい取組を考えたら、次から次へと実施しているような流れなのか。

○事務局

年間計画というものはないが、令和4年2月に開催した地域再生協議会において翌年度の交流事業の実施予定を報告している。これは、ココルクえべつと話し合った上で決定した取組予定ではあるが、「計画」という形ではない。

また、この協議会では交流事業の予算内容について協議していただく想定はなく、生涯活躍のまちをより周知し、多くの方にココルクえべつに来ていただくための取組についてご意見やご助言をいただきたい。

確かに事業の予算について説明がないと議論のしようがないというご意見も理解できる。一方で、昨年度中に今年度の予算を策定しているため、この協議会で今年度の予算額についてご意見をいただいたとしてもすぐに反映することは難しい。来年度に向けて予算措置の必要性を検討していくことになる。

○金子委員

この事業の事業費は総額でいくらか。

○事務局

今年度の生涯活躍のまち整備事業は800～900万円で予算措置をしており、この中にはコーディネーターの人件費も含まれているので、すべての費用を交流事業に使っているという訳ではない。

定期開催イベントと随時開催イベントの実額としては約200万円程度である。

○金子委員

そのような事業費の実績等はわかりやすく資料に掲載してもらいたい。

○川上会長

田原委員も同様の意見か。

○田原委員

先ほど森田委員から話が合ったように広報活動をより行ったほうがいいと感じるが、何をするにもお金がかかることであり、市の持っている予算の中

で行うべきことなのか、予算を新たに組んで行うことなのかという観点でも気になった。

○川上会長

今後の協議会に向けて、事務局には、市で行う事業とココルクえべつが行う事業の区別が明確にわかるように、また、生涯活躍のまち整備事業の予算状況についてわかるような資料作りと説明をお願いしたい。

○事務局

了

○川上会長

その他に質問等はあるか。

○小林徹男委員

今年度自治会との交流ということでラジオ体操を行うという説明があった。これはどこかの自治会のラジオ体操に参加するということか。

○小林孝広委員

ラジオ体操は今年度からココルクえべつで独自に始める事業である。ココルクえべつ事務局から説明いたしたい。

○ココルクえべつ事務局

8月3日から10月31日までの期間で毎日朝6時半から実施する。まずはサービス付き高齢者向け住宅の方を対象に始め、その後近隣の地域の方にも対象を広げていきたいと考えている。

○小林徹男委員

大麻地区の自治会のラジオ体操は、どこの自治会でも単独ですで行っている。私の所属する大麻東町第3自治会でも4月末から10月初めまでの期間でやっている。もうこの時期であるので、大麻地区の自治会に協力をお願いして回覧をしてもらうなど周知の方法を検討してもらいたい。

自治会との交流という点では、市全域の自治会を対象にするのは難しいと思うので、どの地域から始めるのかということについて私からアイデアの提供はできると思う。

○川上会長

自治会との交流事業をよりよい形で進められるように、さらに連携を図りながら調整していただきたい。他に質問等はあるか。

○中井委員

先日、6月5日に市民会館で行われたココルクえべつの報告会の中で登壇していた利用者の方から直接感想を聞く機会があった。この報告会は良かったと思うので、もっと外にアピールしたほうがいい。

また、交流事業はサービス付き高齢者向け住宅の入居者ばかりが対象にな

っている。ぜひ大麻地区の自治会にも知らせしてほしい。

最後に、交流農園は水はけが悪く、花植えに協力してくれていた特別支援学級の生徒さんがかわいそうである。排水の方法等をどなたかにご指導いただいたほうがいいと思う。

○事務局

補足説明を申し上げる。交流農園は酪農学園大学の義平教授と農福連携サークルの学生さんにご協力いただいたところ、まずは植えてみないとわからないということになった経緯がある。中井委員の言う通り、農園の中央部分の水はけが悪く、植えた花の生育に差がある状態であるが、特別支援学級の生徒さんにご協力いただいた場所は比較的水はけの良い場所である。

今後も酪農学園大学の義平教授にご相談しながら、水はけが悪い土地での工夫の仕方を検討していきたいと考えている。

○川上会長

中井委員から要望があったが、他の委員は何かあるか。

○金子委員

今年の4月に江別市から、ジモガクの事業として「CoCo カフェ」や「ブックストリート in ココルクえべつ」のボランティアに学生を募集していることについて説明を受けた。そのため、今回ココルクえべつの事業実施状況説明を受けて、ジモガクの事業とココルクえべつの事業で重複するイベントがあることに大変疑問を感じた。説明願う。

○事務局

江別市ではジモガクを通じて学生ボランティアを募り、市の事業等にご協力いただいている。そのため、「CoCo カフェ」も「ブックストリート in ココルクえべつ」もジモガクの実施事業ということではなく、市で実施する事業で、ジモガクという制度を活用して、学生ボランティアを募集しているということをご理解いただきたい。

○金子委員

ジモガクを活用して学生ボランティアが参加しているのがわかるように記載してほしい。

○事務局

令和4年2月の本協議会でジモガクを通じて学生ボランティアにご協力いただいている旨の説明をしているが、今回の資料では割愛していた。今後も学生ボランティアの参加状況を報告していく。

○金子委員

市内に4つの大学があるというのは、江別市にとって大きなアドバンテージである。もっと積極的に大学に協力を求めてほしい。

○川上会長

市内4大学は江別市の大きな特徴の一つであるので、生涯活躍のまち整備事業のみならず、市全体で連携の取組を前端的に押し出していかなければならないと感じているところである。

事務局とココルクえべつだけではなく、委員の皆様にもご協力いただきながら大学と連携の絆を深めて進めてもらいたい。

○田原委員

温泉は出ているのか？

○小林孝広委員

温泉は掘り終わり、今入浴施設での利用を優先的に、準備を進めているところである。利用の開始日程が確定し次第お知らせする。

○田原委員

私の住む地域はココルクえべつから離れているので、近所の高齢者の方々の多くがココルクえべつのことを全く知らないのが現状だ。

施設のことについて話をすると、地域の入浴施設が減っていることも関係して、特に入浴施設の利用料金のことについて関心を持っていた。ココルクえべつの広報をする際には利用料金の情報も含めて広報してもらいたい。

また、江別市の65歳以上全員を対象に割引してほしいという要望があったことをこの場で伝えさせていただく。

○川上会長

江別市内では最も新しい温泉となる。その点においてもPRポイントとなりうるので、ココルクえべつにはぜひPRをお願いしたい。

3 その他

○各委員

(なし)

○川上会長

事務局から連絡等あるか。

○事務局

次回の協議会は1月下旬～2月頃を予定している。事務局で検討の上改めて日程調整する。

4 閉会